

# 6大学連携 教育支援人材育成事業

東京学芸大学 奈良教育大学 鳴門教育大学 東京成徳大学 白梅学園大学 中国学園大学

## 地域の子どもたちは 地域で育てていくこと

時代の要請は、社会全体で教育を支える必要性を強めています。昨今、繰り返し指摘されている社会的課題のひとつは、学校を中心に地域総がかりで教育力を向上させることです。こどもたちを取り巻く環境や、こどもたちが生きていくこれからの社会は、増々、複雑になっています。教育立国として現在の豊かさを築いてきた日本において、「誰もがみんな、教育活動に関わる社会」を実現し、こどもがよりよく育つ生活環境を整えてあげることがとても大切なことです。またこのような社会は、「教えることが最高の学びになる」という意味で、生涯学習が真に実現した社会の姿でもあります。

一方でこのような社会は、過保護な子育てをイメージさせるものでは決してありません。むしろ、情報化や国際化が進む中で、家庭や地域が変化し、人間関係のあり方も変化する現在、こどもが内側にこもり、豊かな体験や学びが生まれにくくなっていることを問題にしています。このような、体験や学びに出会わせるためには、学校を中心としつつも、意味のある「他者」との出会いに溢れる地域総がかりでの取組が必要となっているのが、現代社会なのです。



## 誰もがみんな 教育活動に関わる社会



そこで、教員養成を主に担っている教育大学やこども学部を持つ大学がネットワークを組み、教育に携わる専門的職業人を支え、地域社会の中で情熱を持って教育を支える人材=教育支援人材の養成・研修・活用について取組もうとしているのが、文部科学省から補助金を得た今回の事業です。

地域には、これから様々な地域での教育活動にボランティアとして参加してみたい方がたくさんいます。また地域の方々は、これまでお仕事や様々な経験を積み、こどもたちに伝えたり、こどもたちとともに活動を行うのに十分な技能や知識をお持ちです。他方で、こどもとの接し

に気づきにくくなっていたり、社会的な要請を素早くキャッチする必要もでてきたりします。そこにはどんな具体的なニーズがあり、どんな学ぶべき内容があるのでしょうか。また、これらを学ぶための研修は、どこで受けることができるのでしょうか。

さらには、こうした教育活動に参加する地域の方々への養成や研修が、ただ実施したというのではなく、持続可能な地域の教育支援人材養成・研修として生きて働くものにするためには、地域の中でどのようなシステムを整えればよいのでしょうか。

このような、養成・研修・活用の問題について、大学の研究を基盤にコンサルティングしたり、要請に応じて、市民や行政と連携し、具体的に実施するお手伝いをしようとするのが今回の取組の中身です。平成20年10月から始まったこの取組では、まず3年間にわたり、モデル事業の研究開発と実施を通して、このような教育支援人材の養成・研修・活用のよりよい方を検討します。そしてその成果を生かし、後の7年間で、開発された仕組みや制度を全国に普及させ、地域の教育基盤を再整備することを目的としています。

ここでは、主に初年度の取組についての報告を行います。地域における日々の教育活動の参考にしていただくとともに、自分の地域でも連携して取り組んだり、また研修や養成の講座を受講してみたいといった関心をお持ちになりましたら、お近くの大学または本事業事務局までお気軽にご連絡ください。

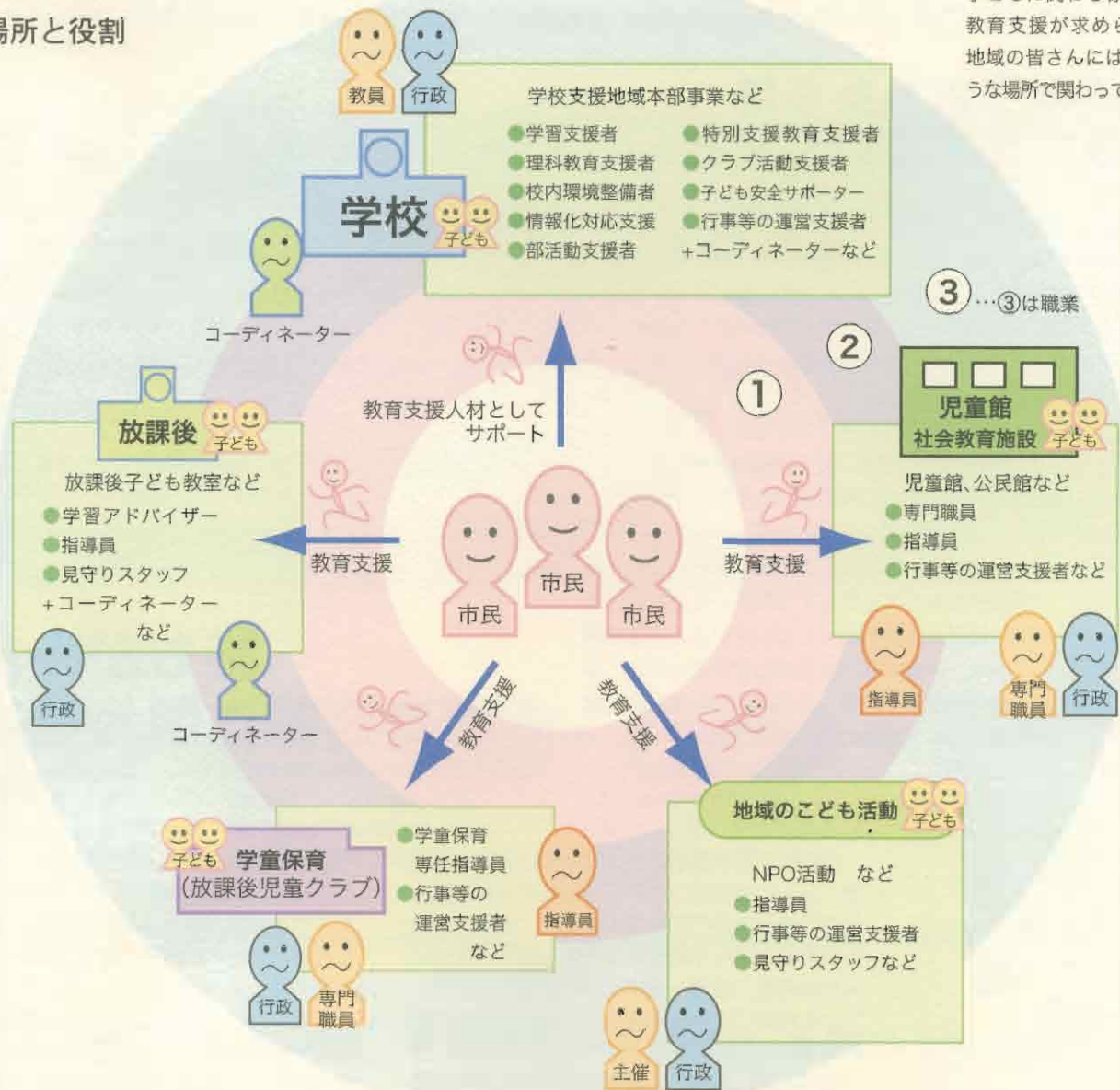
## 教育系大学からの発信 -教育支援人材の養成・研修・活用-

方はよくわからなかったり、学校や地域での教育活動で大切になっていることが理解できなかったりということもあります。これまでのキャリアが評価されるとともに、何を新たに身につければ、教育活動への参加はうまくなされるのでしょうか。また、このような力を身につけたり、身につけた力を生かして実際に教育活動に参加する仕組みは、どこにあるのでしょうか。

また、すでに地域で様々な教育活動に参加している方には、「こんなときどうすればいいんだろう」とか、「もっとこういうことについて勉強してみたい」というニーズがあります。他方で、すでに活動しているからこそ、逆に大切なこと

## 教育支援人材の活動場所と役割

子どもに関わる様々な場所での教育支援が求められています。地域の皆さんには教育で図のような場所で関わっていただけます。

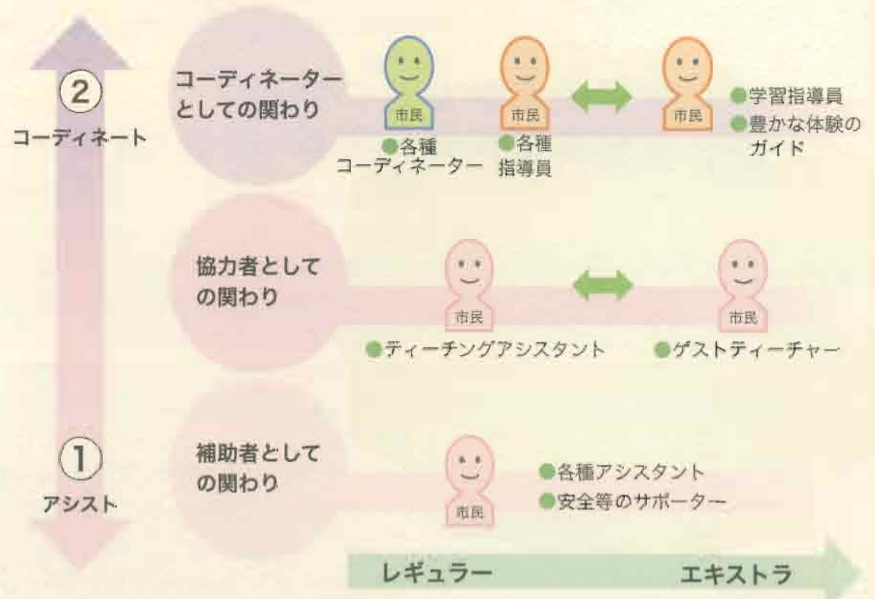


## 教育支援をどこで、どのように

地域で教育支援人材として活動しようと考えた場合、身近なところで、様々な場が広がっています。本事業では、こうした多様な場について、質的、量的な調査を平成20年度に行いました。その結果、こうした多様な場には、さらに、「コーディネーターとしての関わり」「協力者としての関わり」「補助者としての関わり」という3つのタイプがあることがわかりました。また、ほとんど毎日「レギュラー」として関わられていたり、都合のつくときに週に1、2回程度や、週末だけなど「エキストラ」として関わられている場合もありました。

「どこで」「どのように」という視点から見たとき、教育支援人材には、本当に多様なタイプがあることがわかります。逆に言えば、このように、自分のライフスタイルに合わせて、「できるときに、できることを」が基本となっているのが地域の教育支援人材だと言えます。

## 教育支援人材のタイプ



## どうすれば教育支援人材の輪が広がるのか

新しく教育支援人材として、地域の教育活動に参加する方を募ることが「養成」の第一歩です。ところが、本年度の研究からは、地域活動が多岐にわたるとともに、参加者が固定化し、結局どのような活動も同じ人が行っている場合も多いということがわかりました。教育活動に参加する輪を広げるためにはどうすればよいのでしょうか。ひとつには、「口コミ」による、地縁関係に基づいた誘いかけ。もうひとつは、講座や認証制の導入など制度的に橋渡しする仕組みが作られることです。

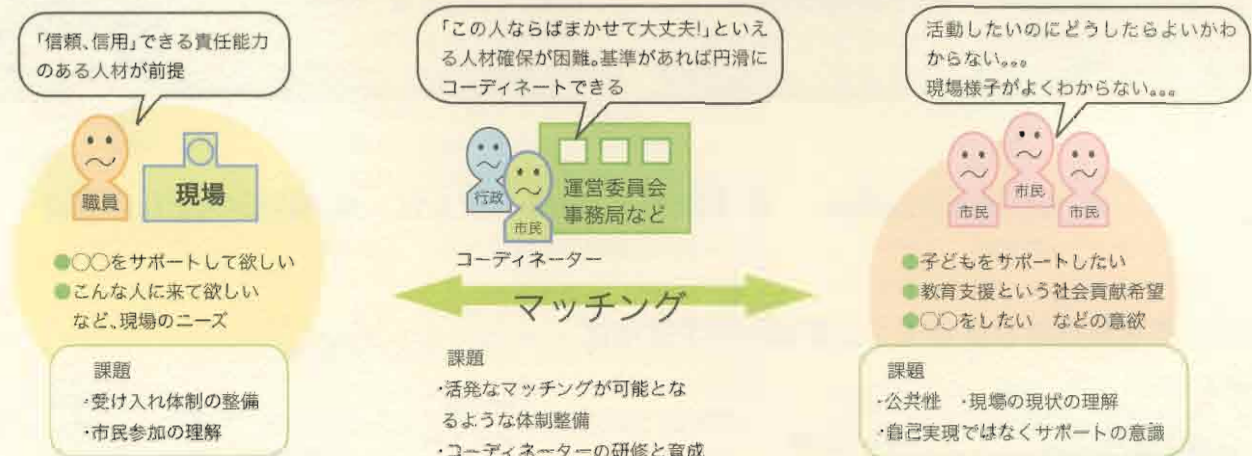
ところが、もう一方でさらに考えなければならないことがあります。それは、地域特性によって、新しい参加者を比較的世代の近いもの同士で募る「横への広がり型」と、新しい参加者を、大学生や中・高生など、異なる世代に求めていく「縦への広がり型」の、大きく2つのタイプがあることがわかったことです。人の流動性や、そもそもの人口規模の問題がここには横たわっています。教育支援人材の養成を考えると、このように地域の特性を考えることは大変重要なこととなります。



## 教育支援人材に必要なこと

一方で、すでに教育活動に参加する方々に多い要望として、「ボランティア間の人間関係をいかに構築するか」というものがあります。こどもたちとの関係のまえに、大人同士の関係が問題となるということです。本事業で実施したどの地域でもこの声の大きさは共通しています。

このときに、教育支援人材として「こどもと関わる」ことが、「公」の性質を持ってなされるのがポイントになってきます。つまり、「見知らぬもの同士が共通の利益を求めてともに力を合わせる」ことが大切になりますから、そのときのコツは、「自分自身について、常に振り返る視点を持つ」ということになります。ボランティアを基本として、自発的、主体的に行うものであるからこそ、一方では「独善的」になる危険性をいつもこうした活動ははらんでいます。「自分を振り返ること」がみんなのマナーとなれば、人間関係は自然に構築されていきます。こうした内容について理解してもらった講座は、どの地域においても大変高い評価を得ています。また、実際の人間関係の構築にも役立っているようです。



活用めぐる課題

## 「この人ならば任せて大丈夫」を生み出す仕組みづくり

活用をめぐるっては、これまでも「人材バンク」等、いろいろな取組がすでに行われてきましたが、どれもあまりうまくいっていません。その理由の一つに、結局のところ「この人ならば任せて大丈夫」という「信頼」ないし「信用」の問題が教育支援人材には強く求められており、それは「責任能力」のようなものを、現場で特に大切にすることから、ということがわかってきました。

この問題をクリアするためには、この「責任能力」のようなものに、太鼓判を押すしくみや、こういう力を高める研修・養成システムが必要です。かなり難しい問題ですが、モデル事業では、この点にも力を入れて、カリキュラム開発を進めているところです。また、活用できる仕組みを作るためには、教育支援人材を養成したり研修したりする講座内容が、地域の実情や要望に応じて、「オーダーメイド」的なものである必要があることがはっきりしてきました。ところが一方で、こどもと関わるわけですから、どの地域でも必要であったり、要望されるものももちろん多くあります。このことから、共通カリキュラムと個別カリキュラムという2本柱からなる内容が必要であることがわかってきました。活用するためには、これまでのような「資格」を付与するためのカリキュラム構成では、あまり役立たないということです。



## 教育支援人材の育成のために教育系大学が行なう4つの研究と具体的な方法

養成・研修・活用の問題について、大学の研究を基盤にコンサルティングしたり、要請に応じて、市民や行政と連携し、具体的に実施するお手伝いをしようとするのが今回の取組の中身です。

### 取組の内容

#### カリキュラム開発

教育支援人材に求められている力とは何か。求められる力の育成に関するカリキュラムの開発を行ないます。

#### 運用モデル検討

モデル実施を通じて、地域の状況に合わせた人材育成システム、人材活用システムのノウハウを研究します。

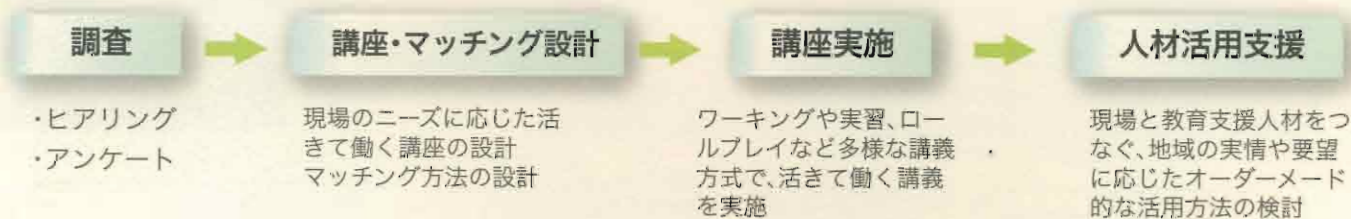
#### 認証評価システム開発

教育支援人材の教育資格の認証評価の方法とシステムについて研究開発を行ないます。

#### 広報・ネットワーク開発

本事業の告知を通して、地域の教育に携わる人材のネットワーク化の方法を研究開発します。

### 地域への働きかけ



- カリキュラム作成
- 実施モデルのシステム化
- 認証システムの構築

### 平成21年度からはじまるモデル事業実施予定地区 ※一部、検討中の地域もございます。

教育支援人材の  
育成と活用  
についてモデル事業

東京都 教育庁連携 モデル	練馬区 足立区 日野市	東京都 複数市町村 連携モデル	小金井市 小平市 国分寺市	長野県 モデル	軽井沢町
東京都 市町村単独 モデル	福生市 北区 台東区	岡山県 モデル	岡山市 倉敷市 笠岡市	奈良県 モデル	奈良市
				宮城県 モデル	利府町 etc.

平成21年度には、全国の13地域で、モデル事業を通じた研究開発を予定しています。お近くの取組に参加いただくとともに、新たな連携による新しいモデル事業の取組の広がりも期待しています。各大学窓口や、事業の事務局にどうぞお気軽にご連絡ください。



### 連絡先

◎ 本事業についての詳細をご希望の方は、コチラまで空メールを送信下さい。後日詳細資料をお送り致します。

e-mail : senryaku@u-gakugei.ac.jp

- 東京学芸大学 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 042-329-7603(総務部学系支援課)
- 奈良教育大学 〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 0742-27-9108(総務課)
- 鳴門教育大学 〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地 088-687-6000(代表) 088-687-6092(教務課教育企画チーム)
- 東京成徳大学 〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13 03-3908-4530(代表) 03-3908-4563(教務課)
- 白梅学園大学 〒187-8570 東京都小平市小川町1-830 042-346-5639(企画調整室)
- 中国学園大学 〒701-0197 岡山県岡山市庭瀬83番地 086-293-1100(代表)